

2023.4.18

## Euroluca 2023.

### 「The city of Lights(光の街)」

#### 5つの展示と大規模なインスタレーション

#### 目に見えるものを超えて、探索し、体験し、知る

「The city of Lights(光の街)」:これは見本市のコンセプトであり、テーマでもあります。これは、展示品の数と質だけでなく、想像力と具体的なビジョンが、その学際的な文化的内容を特徴づけていることを示唆しています。これにより、エウロルーチェは感動と知識の共有による幸福な実験室となることでしょう。

エウロルーチェの展示レイアウト(9-11 ホール、13-15 ホール)を一新し、進化を加速させることは、**展示内容の充実**という観点からも有意義なことです。単なるビジネスイベントや新製品発表の場ではなく、**人工光や自然光**に関連する**様々な分野の創造活動**を促進する機会でもあるのです。ミラノサローネはエウロルーチェを再構築し、発見と再発見、過去と未来への考察、宝物と感動のオープンスペース、テクノロジーと詩、建築とデザインの対話の時間、そして卓越したインスピレーションの源に昇華させるのです。

「The city of Lights」は、Beppe Finessi(ベッペ・フィネシ)が科学的見地から企画しコーディネートしたイベント、**展示、インスタレーション**などの幅広いプログラムで構成された**多面的、学際的、多中心的な文化プロジェクトのコンセプト**に基づいており、**多くの異なるビジョンの強さ、遠く離れた声同士の対話こそ、対立が生み出す付加価値**であるとFinessi氏は信じています。

#### Beppe Finessi(ベッペ・フィネシ)のコメント

「Lombardini22 スタジオがエウロルーチェのために開発した新しいレイアウトを見て、彼らが提案したデザインと『街』のアイデアを強調することに努めました。その提案から、『光の街』、すなわち、異なる感性、言語、背景、世代のキュレーターやデザイナーに任せた、明確なコンテンツプログラムを中心とする一連の文化的イニシアティブを想像しました。私たちは、コンテンポラリーアート、建築、写真など、他の分野を『エウロルーチェ』に取り込むために、ホール内に分散して展示する、デザインを補完するコンテンツのプロジェクトを彼らと一緒に行うよう呼びかけました」

多くのクリエイターが参加し、そのデザイン、言語、美学、理論の多様性により、光を対象や主題とする視点や経験、時には矛盾するような経験を来場者に提供します。オブジェ、写真、ドローイング、彫刻、ビデオ、そして **Maurizio Nannucci(マウリツィオ・ナンヌッチ)**の力強いサインが、サイトスペシフィックな大型インスタレーションと5つの大きな**展示の主役**です。それらは**ディスプレイの間仕切り**となる **Formafantasma(フォルマファンタズマ)**が

設計した「コステレーション(星座)」と呼ばれる7つの建築物とインスタレーションとなって会場コンテンツを形成し、展示経路の間で詩的な「休憩の場」を提供します。

### 【アリーナ「AURORE (アウローレ)」】

フォルマファンタズマのアンドレア・トリマルキとシモーネ・ファレジン設計： ホール 13

#### ● 7つの大型 LED スクリーン

このイベントの最も象徴的な場であり、光の新しい体験を呼び起こすために考案された、オリジナルで洗練されたインスタレーションの特別なアリーナです。

このプロジェクトでは、フォルマファンタズマが常に協働している哲学者の Emanuele Coccia (エマヌエーレ・コッチャ) と再び協働し、プロダクトデザインにおける光の捉え方を超えて、光について考察を行いました。インスタレーションは、ベルベットの布張りの家具とカーペットの床で構成された、色彩溢れるサロンの上に、7つの大型 LED スクリーンが設置されています。

これらのスクリーンは、座席の上に設置され、まるで空間に浮いているかのように、一見抽象的な映像構成のフィルムを映し出し、その瞬間だけ、撮影された被写体がよりはっきりと浮かび上がります。このフィルムには、エマヌエーレ・コッチャとともに書いた、光の宇宙論的・実存的次元を探求するテキストを朗読するナレーションが添えられています。自然現象としての光と、人工の道具としてのエンジニアリングというテーマを扱った後、1925年にジュネーブで結成された Phoebus Cartel (ポイボス・カルテル) に言及し、デザインとエンジニアリングの誤用に対する批判で締めくくられています。

実は、このポイボス・カルテルは、当時最も重要な電球メーカー数社によって設立され、白熱電球の陳腐化を計画することによって、白熱電球の世界市場をコントロールすることを目的としていた。1925年、カルテルは家庭用電球の使用時間をそれまでの2,000時間から1,000時間に短縮することを決定しました。

アンドレア・トリマルキとシモーネ・ファレジンは、「トークイベントのための機能的な空間を提供すると同時に、デザインに関わる可能性と責任について考えるきっかけとなるような、十分に複雑な光の見方を提供したいと思います」と述べています。

#### ● TALKS

このアリーナでは、現代の照明プロジェクトシーンで最も輝く人物たちによる一連のカンファレンスが開催されます。坂茂、田村奈穂、Snøhetta/スネヘッタの Kjetil Trædal Thorsen/シュティル・トレーダル・トールセンと Marius Myking/マリウス・マイキング、MAD アーキテクトの Andrea D'Antrassi/アンドレア・ダントラッシが、アンナリーザ・ロッソのキュレーションのもと、照明分野のイノベーションがいかに関わりの未来の生活を向上させるかについて、世界中から集まったジャーナリストより質問を受けることになります。この討論会では、プロジェクト、デザイン、建築がいかに関わりの未来を想像し、新しい道を開き、解決策を考え出し、「可能性」を探求し、洞察力と想像力を誘発するかが示されるでしょう。

#### ● ビデオ・オーディオインスタレーション

また、カンファレンスが開催されない時間も、製品としての光、自然現象としての光、そしてその実存的な側面について考察する光の没入型のビデオ・オーディオインスタレーション



ーションとなり、光が人間や外界に及ぼす影響を測定する瞑想的な空間となります。光と色の周波数の違いにより、インスタレーションは私たちの五感を刺激し、宇宙的なスケールと光が星から地球まで移動する時間に言及し、生物発光や集約栽培、生物医学の分野での光の使用などの自然現象に触れることができます。

アンドレア・トリマルキとシモーネ・ファレジン、「私たちが目指すのは、朝のプレゼンテーションに適した空間であると同時に、照明デザインがもたらす可能性と責任について考えるきっかけとなるような、非常に複雑な光のビジョンを提供することです」と述べています。

### 【ブックショップ】

もうひとつの重要なスペースは、デザイン、アート、イラストレーションのブックショップで、「光」やデザイン、建築、インテリアというテーマをさまざまな方法で探求した文学作品も並びます。著名な出版社だけでなく、ニッチな出版社、希少本、現在入手困難な本、ポスター、陶器、小さなオブジェや一点物、最新のアクセサリやビンテージアクセサリ、限定版プリントなどが並びます。このスペースは、Corraini Edizioni (コライーニ出版社) がキュレーションし、フォルマファンタズマがデザインした、一般的なブックショップとは全く異なる、親密で温かみのある居心地の良い空間です。

また、「コライーニ」の精神に基づき、あらゆる年齢層の子どもたちが、楽しく、独創的に企画やデザインの世界に触れることができるような本にも特別な配慮がなされています。

このスペースは、単に本を販売するだけでなく、図書館のように本を閲覧できる場所として設計されました。その美学はエウロルーチェのすべてのインスタレーションやディスプレイと対話し、全体のキュレーションと展示プロジェクトの不可欠な一部となることでしょう。

### 【サイトスペシフィック・インスタレーション】

You Can Imagine the Opposite(反対を想像する)

Maurizio Nannucci (マウリツィオ・ナンヌッチ)

現代美術における人工光の最も強力な解釈者の一人であるマウリツィオ・ナンヌッチによる、サイトスペシフィックなインスタレーション。「YOU CAN IMAGINE THE OPPOSITE」と書かれた長いネオンが、「反対を想像する」ことを理想とし、創造性と好奇心と高潔なアプローチを促します。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it